

「きっかけ」を大切に
ー令和5年度当初に際してー

昨年度に引き続き本校校長を務めます 齋藤幸之介でございます。1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

4月6日には、入学式並びに始業式を行うことができました。御子様の御入学・御進級、誠におめでとうございます。

始業式は、わずかながらも雨が降り、全校で集まることは叶いませんでしたが、各教室での着任式、そして始業式を経て、新しい学年・学級での活動となりました。期待をもったの新たな出発になったと捉えています。

入学式では、53名の新入生をお迎えすることとなりました。少し緊張しながらも、下校時には安堵とそして笑顔をもって保護者の方々と下校する様子を見、私共は今後しっかりと保護者をお預かりしないと、と引き締まる思いがいたしました。

今年度は、当初431名の子供たちをお預かりすることとなりました。本校教職員一同ができる限り努力をし、子供たちが楽しく生活できるようにしてまいります。

さて、表題に「きっかけ」と示しました。子供たちにとって、新たな出会いは、その次に変容するためのきっかけになることがあります。私共は、大小様々な出合いをできるかぎり見逃さないようにしたいと考えています。

例えば、本年度は、6年生が「多摩市子どもみらい会議」に参加したり、この基盤の一つになると考えられる「諏訪っ子市場」を行ったりします。また、このことは6年生の1年間で行うのではなく、1年生から積み上げた様々な学習経験を踏まえて、ということになります。以上のことを達成するために必要なことの一つは、学校だよりでも御紹介をした「探究的な学び」です。子供たち一人一人が思いや願い、課題を明らかにし、見通しをもってこれらを解決したり叶えたりし、さらに今後の社会のあり方を自分なりに明確にしたり社会参画をしたりする、というプロセスを大切にしていくことになります。また、このことは日々の学習を大切に身につけたものを活用することも求められます。本校で今まで大切にしてきたことをさらに磨き、よりよい活動ができるように、「きっかけ」を大切にしていきたいと思います。

以上のことは、多摩市が目指すE S D（Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育）を具体化することでもあります。国際連合が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）を達成することにも大いに関連しています。「2050年の大人づくり」などと言われていますが、今後の社会形成に参画する子供たちを育成するために、時に試行錯誤しながら取り組んでいきたいと思います。

そのためには、まず、子供たちが楽しく学校に来ることが最も重要です。何よりも「いじめを絶対に許さない」ことを絶えず確認し、子供たちが互いのよさを認め、また友達の思いや立場を尊重できるように努力してまいります。

また、例えば、すでに広く理解をされ、またその具体化を図るべく求めている働き方改革を目指していかなければなりません。学校でできること、すべきことと、皆様に御協力を得ていくこととを改めて検討しながら教育活動を進めていくことが重要かとも思います。昨年度より本校もコミュニティ・スクールとなって地域や保護者・御家族の方々との連携をさらに緊密に図っていくことを一層強く意識するようになりました。教職員の業務は効率化を求められることもあります。教育活動では、当たり前のようにタブレット端末が活用されるなど、少し前では考えもつかない活動が見られ、学習の多様化や効率のよい取組も行われるようになりました。

しかし、子供たちの活動は、時にゆっくりであり、誤解を恐れずに申し上げれば、常に変容が見られるものでもない場合があります。時に、牧歌的などと言い、例えば「冒険の丘」に腰を下ろし、草花をゆっくりと観察することも子供たちに必要な姿かと思われます。時間を多く要する活動や場面も、適時性を見計らいながら組み入れていくことになる、と考えています。

私は、着任当初より、“Festina Lente”「ゆっくり急げ」という表現を何回か用いています。緩急をつける、ということにもなりましょうか。いずれも、子供たちの実態に応じ、結果として確実な成長を叶えられるようにしていきたい、と考えています。

今後皆様には多くの御理解と御協力を得ることとなりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上、年度当初の御挨拶とさせていただきます。

令和5年4月10日

多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介